

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872201138		
法人名	医療法人社団順心会		
事業所名	グループホームしらぎくの家		
所在地	兵庫県加古川市野口町坂井字西ノ大町58-1		
自己評価作成日	平成22年6月30日	評価結果市町村受理日	平成23年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-8-102
訪問調査日	平成22年7月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は利用者と共に本来の家事炊事の共同作業を目標にしています。まず食事の献立の買い物と一緒に、おやつのお買い物からはじめています。少しでも外出することにより、家庭的な感覚を感じるのではないかと考えています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とするグループホームは関連施設の建物の中で可能な限り家庭的な雰囲気作りができています。住宅地の一角にあるホームは、地域の店への買物や、近隣の中学校の行事への参加・中学校の卒業式への作品のプレゼントやの暑中見舞いのやり取りなどを通して交流を継続している。近隣住民より敷地内の庭木の手入れの申し入れがあり協力や交流の機会が増えている。ホームでの日々の過し方は特別決められたスケジュールはなく、利用者が思い思いに自由に過ごせるように支援している。職員は親しみのある声かけをしながら、利用者の能力に応じて、本人が意思決定し、希望が言いやすい場面作りができており、利用者がその人らしく暮らせるように本人の視点に立って考えていくようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の引継ぎにおいて問題点を共有し管理者へ報告をする取り組みを行っている	家庭的な雰囲気ですぐぐと過ごします。健康維持に努めます。コミュニケーションを図りその人らしい生活の支援を行います。の法人理念を下にグループホーム独自の理念を謳っている。管理者は日々のケアの中で理念に立ち戻り、話し合い理念の実現に向けて取り組んでいる。	全職員で話し合いを持ち、地域密着型サービスとしての役割を、理念に盛り込まれることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との推進会議を2ヶ月に1回行い地域の情報を知り施設の情報を提示している	地域の店への買物や、近隣の中学校の行事への参加・中学校の卒業式への作品のプレゼントやの暑中見舞いのやり取りなどを通して交流を継続している。敷地内の庭木の手入れの申し入れが近隣住民よりあり協力や交流の機会が増えている。近隣住民へ夏祭りの参加呼びかけを行い交流が深まるように取り組んでいるが、近隣住民の参加は進んでいない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護老人保健施設と共同で夏祭り、ボランティア、介護教室などを開催し地域及び家族の参加を頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では自治会、老人会の方の参加があり当施設での今後のボランティア、草刈り等話し合い協力を得るなどの交流がある	年6回、町内会長、老人クラブ代表、地域包括支援センター職員、利用者家族の参加の基実施している。運営状況・行事報告を行い、議題を持ち参加メンバーから情報や意見をもらいサービスの質向上に活かしていくように取り組んでいる。	知見を有する方の参加が望ましい。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者の変更及びケアマネの変更など手続き等において状況説明など指導を仰いでいる	市の担当者とは、書類提出時に交流する程度であるが、地域包括支援センターを通して市の担当者に現状報告が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については年1回老健施設と合同で勉強会を実施している	同法人の老人保健施設と合同で勉強会を年1回持ち、身体拘束をしないケアの理解と実践の浸透を図っている。玄関は、外からは自由に入る事はできるが、内から外へはボタンを押してドアを開けないと出ることができない。	今後も勉強会を継続し、グループホームで起こりうる可能性のある拘束についての理解を深め拘束のないケアの実践を期待する。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	老健施設との全体会議、GHでのカンファレンスなどにおいて自己啓発を促している	勉強会を行い身体拘束と虐待について、理解を深めている。管理者は、職員の話をよく聞くようにし職員がストレスを貯めないように取り組んでいる。	言葉による虐待や精神的虐待をも含めて日々のケアで起こりうる可能性のある虐待について管理者より職員へ問題提起を行い、虐待の範囲についての理解を深め虐待を未然に防ぐ取り組みを期待する。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回年1回老健施設と合同で勉強会を実施している	成年後見制度・日常生活自立支援事業について老健施設と合同で勉強会を実施して周知を図っている。現在まで利用された方はいない。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明を行い同意のサインを頂く家族の言葉をカルテの記録に残し必要時面談する	契約書のなかに具体的な内容を盛り込み一つひとつの項目について説明を行っている。退所に関しては、より具体的な例・起こりうることを予測した内容を口頭で説明し理解と納得を得て契約してもらうようにしている。契約内容の変更に変更が生じた場合は、変更部分のみでなく再度契約書を発効し理解してもらい契約を結びなおしている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置	家族が来訪時に職員は、声かけを行い普段の生活状況などを報告し家族から出た言葉を介護記録簿に記録として残し、管理者は記録を確認し、家族からの意見や不満・要望を聴き逃さないように取り組んでいる。出された希望や要望には、管理者が速やかに対応するようにしている。毎月発行している「しらぎく通信」を請求書と一緒に家族に郵送しホームの状況が分かるようにしている。個別には、体調の変化や生活状況の変化時に報告するようにしている。	利用者個々の状況が家族に分かり易いように毎月発行するしらぎく通信を工夫することを期待する。
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の実施、運営会議に参加	職員会議で意見をまとめ、運営に関しての意見は、併設の老健の中での各委員会へ報告し、まとめた上で運営会議で検討して運営に反映させるようにしている。日々管理者が職員の意見や要望を聞き取るようにしている。馴染みの関係を重視し職員の移動はない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2市2町グループホーム協会主催の勉強会、講演会に出席している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の看護・介護研修に参加予定		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2市2町のグループホーム協会管理者会議に出席他施設との情報交換を行っている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な面接を行いその家庭環境、生活暦を理解し要望に沿えるよう配慮している		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも相談に応じる		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要であれば他のサービスへの提案も行っている		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が自分で行えること、やりたいことには拒否をせず見守りの姿勢で接する		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が体調を崩したり、何かの希望があった場合も家族との密な連絡、相談、協力にて解決をしている		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、親戚など、随時面会をさせていただいている	利用時に家族に自由に面会をしていただくようになっていることを説明し、家族の理解のもと利用者へ友人・知人の面会があれば自由に面会してもらっている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	デイルームでの談話、食事には職員も同席できるように配慮し会話を繋げる		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了時以降でも相談には応じることも提示しておく		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難なことが生じた場合職員で話し合いを行い本人にとってどうすればよいかを検討する	特別決められたスケジュールはなく、利用者が思い思いに自由に過ごせるように支援している。利用者より直接の思いや希望・意向の訴えはないが、職員は親しみのある声かけをしながら、利用者の能力に応じて、本人が意思決定し、希望が言いやすい場面作りができており、利用者がその人らしく暮らせるように本人の視点に立って考えていくようにしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、それを取り巻く職種よりの情報収集		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテの記入用紙には1週間の流れが分るような様式とし利用者の状態の推移が一目で分るようにしている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向など言葉でカルテに残しケアカンファレンスに反映している	入居時の家族本人から聴取した内容で暫定の計画を作成し、利用開始後、基本調査・ケアチェック表でアセスメントを行い、担当者会議で職員からの気づきや意見を反映させながらケア項目別に生活支援計画書を作成している。おおむね3ヶ月に1回の見直しを実施しており、見直し前に家族には意見や要望に変化がないか確認し、計画に反映できるようにしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別性のあるケアの実践を試みている		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	老健内でのボランティア、共同行事に参加 買い物など可能な限り利用者と共に行くようにしている		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議では自治会、老人会の方の参加 がありトライやるウィーク他消防訓練などの実施		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があればかかりつけ医への受診を支持している	月1回心療内科の往診を受けている。整形外科・眼科などは、現在家族が同行し受診している。緊急時は、順心会病院へ受診し支援している。基本的には、受診は家族に依頼しているが、家族の状況や緊急時は、受診支援している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護職であり毎日報告指示を仰ぐようにしている		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換は密行っている 入院の際はサマリーを贈って情報提供をしている	入院時は、状況が分かるように入院先にサマリーをで情報提供している。入院期間中は、医療連携室などを通して入院中の情報提供を随時受け、早期に退院できるように支援している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医師との連携を取りながら、今後の方向性を家族と話し合いを早期に持つ	現在の職員の状況や医療との連携状況などを考え終末期・看取りを行うのは、困難な状態ではないかと考えて終末期の受け入れは行っていない。受け入れに対しては医療との連携や家族と話し合いを持ちながら方向性を検討していきたいと考えている。契約時より終末期の受け入れは困難であることは説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成しているが、初期対応の実践は訓練できていない日常は管理者がいるのですばやく報告されている		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、防火教育等定期的を実施 地元の消防署の立会いは年1回実施している	年1回消防署立会いでの防火・避難訓練と2ヶ月に1回の防火・防災教育・訓練を実施している。避難訓練は、考えられるいろいろな出火場所を想定し訓練を行うようにしている。加古川白寿会で備蓄の準備もある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士の会話にも注意をしている	教育年間計画で人権擁護について研修を行い、プライバシーや誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応ができるように取り組んでいる。個人情報の保管は、スタッフルームに設置している。	個人のカルテは、外部から見えないようにすることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	焦らさずじっくりと考えて自己決定が出来るような態度、働きかけを心がけている		



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理じいはせず本人の希望をかなえるように支援している		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容は家族本人の希望により行う 私服であり本人の好みの服装をしている		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食の場合は利用者の意見を聞きメニューへ取り入れる	今までは、全部業者からの食材搬入を受けていたが、現在は、日曜日のみ買物から調理まで利用者と共に実施するようにしている。献立は、利用者の意見や季節を考え管理栄養士の資格を持った職員がメニューを立てている。開設後7年を経て加齢もあり利用者個々の食事に関する一連を作業への参加が困難な状態になってきているが、利用者の心身の状況を考えできるだけ範囲で参加してもらえるように場面作りを考え支援している。利用者の摂取状況に応じて現在、刻みなどで対応している。季節行事や利用者の希望に合わせて行事食を作ったり、お寿司などの出前を取ったりしている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好に応じて調理方法を変えている		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは声掛けの方と誘導の方とにわかれ見守りで毎食後に行う		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンに合わせて誘導し自立に向けて支援している	利用者の排泄状況・パターンを把握し声かけや誘導・オムツや尿取りパットの利用など個々に合わせて羞恥心に配慮した支援を行うようにしている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便状態を把握して必要時腹部マッサージ乳製品の摂取薬の内服を行っている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定時の基準は設けてあるが本人の体調、希望に応じた取り組みをしている	基本的には入浴日を決めて入浴できるようにしているが、利用者の体調や希望・気分に合わせて臨機応変に入浴できるように支援している。女性の利用者のみで同性介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	排泄のパターンを知り誘導し 睡眠を妨げないようにする		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服薬はカルテにて内容が分り、変化については、連絡ノートにて共有報告体制を密にして症状の変化を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味に合わせた楽しみの時間を作るようにしている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎週木曜日パンの販売が来るので出来るだけ利用者と共に買い物に行くなど外出の頻度を増やしている	散歩や買物でできる限り外出の機会を多くもてるように支援している。季節行事での外出はホーム全体で行くが、その他は個別の外出支援を行うようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望するおやつなど各自で買い物にいけるよう工夫を考案している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望要望には答えている 各部屋には机が設置してありプライバシー保護に努めている 電話に関してはステーション内で出来るよう配慮する		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節感を出すような花を飾り人の気配を感じながら安心して過ごせるよう室内環境にも配慮している	玄関を入るとフローア全体は明るく清潔感があり、広々とした共用空間に季節の花を飾り、利用者がゆっくりと過ごされている様子が見渡せる。 共有空間のフローアは対面式のキッチンで調理しながら職員と利用者の会話や笑い声が聞こえ家庭的な雰囲気を感じさせる。トイレ、浴室は入居者一人ひとりの状況に合わせて、自立した生活が過せる環境が整っている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングにも椅子を置き自由に休めるよう配慮している		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた家具などを配置し自宅で過ごしているような安心の出来る空間を作るように心がけている	居室は、利用者が使い慣れた物を置き、希望や趣味を活かした雰囲気になるように家族の協力を得て、居心地よく過ごせる空間作りを行なっている。その人らしい居室づくりを行うことで部屋間違いを起こすことが少ない。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守り声掛け誘導をさりげなく行い不安感を与えないように心がけている		